

『第17回レスキューロボットコンテスト』における 消防庁長官賞の授与について

総務課・消防研究センター

1 レスキューロボットコンテストの開催について

平成29年8月11日（金）から12日（土）の日程で、神戸サンボーホール（兵庫県神戸市）において第17回レスキューロボットコンテストが開催されました（消防庁特別共催）。また、今回は自治体消防制度70周年の記念事業として実施されました。



（第17回レスキューロボットコンテストのポスター）

消防庁では、第8回（平成20年）に初めて消防庁長官賞を設け、その後も継続して先進的な科学技術の導入等により要救助者の負担軽減と効率的な救助を実現したチームに対して表彰を行い、今後の消防防災活動を支えるレスキューロボットの研究開発・実用化の推進に寄与しています。

2 レスキューロボットコンテストとは

日本におけるレスキュー技術の研究においては、平成7年の阪神・淡路大震災から得られた教訓を踏まえ、技術的課題に関する様々な検討が行われてきました。

ロボット技術の発展により、東日本大震災における福島原子力発電所事故の調査活動に活用されているものもあります。

レスキューロボットコンテストは、参加者が作成したロボットを操作し、がれきに埋もれた人を救助するなどの課題に取り組むことで、レスキュー活動の重要性や難しさについて自ら考えるとともに、将来的にレスキュー機器等の開発に携わる青少年を育成することや、防災やレスキューの必要性について広く知ってもらうことを目的としています。

3 消防庁長官賞の受賞チーム

今回の消防庁長官賞は、「いつでも どこでも だれでも ベストパフォーマンス」をコンセプトにレスキュー活動を行った「大工大エンジュニア」が受賞し、消防庁消防研究センターの長尾一郎研究統括官より表彰状と盾が授与されました。



消防庁長官賞を受賞した「大工大エンジュニア」
（大阪工業大学 モノラボロボットプロジェクト）
※左端 長尾一郎 消防研究センター研究統括官

ロボットの特徴としては、全方位カメラ（360度パノラマ画像）を活用した救助現場の情報収集技術や搬送ロボットに取り付けられたカメラの画像処理によるライントレースシステムと誘導用ロボットが発信する赤外線をトレースするシステムの併用により要救助者を自立的に搬送する技術が使用されるなど、要救助者の安全を最優先に考えられていました。

「大工大エンジュニア」は、今回の大会において要救助者の容態をいち早く判定したことで、迅速な救助と安心・安全な搬送につながった一連の活動が高い評価となり、消防庁長官賞の受賞となりました。

コンテスト当日の詳細については、
レスキューロボットコンテスト公式ホームページ
<https://www.rescue-robot-contest.org/17th-contest/>
を御参照ください。

問合わせ先

消防庁総務課（消防技術政策担当） 守谷、小林
TEL: 03-5253-7541